

## 令和5年度学校評価報告書

北海道教育委員会教育長 様

北海道旭川南高等学校長



## 1 本年度の重点目標

- (1) 授業改善を図り、生徒の意欲を引き出し、確かな学力の向上を図る。  
 (2) キャリア意識を高め、主体的に科目選択に努め、第一志望の進路実現を図る。  
 (3) 規範意識を高めるとともに、いじめを許さない「命を大切に作る心」の育成を図る。

## 2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	教職員アンケートでは、授業の指導方法の工夫改善、生徒の学習意欲と学力向上について30%が不十分とし、保護者アンケートでは28%が不十分であった。生徒アンケートでも「理解しやすい授業」「自ら学び自ら考える力と学力の向上」についてそれぞれ25%が不十分としていた。ICTを活用した授業改善を図り、基礎学力の向上とともに主体的で対話的な深い学びをさらに推進していく必要がある。	学習指導の「自己評価と取組」は、ほぼ妥当、「改善方策」は妥当である。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員のICT活用スキル向上は一朝一夕にはいかないが、生徒アンケートでは良い結果を得ており改善が見られる。</li> <li>・進学型総合学科の特色を生かした学習、特にキャリア学習は、進路決定や学力向上に成果をあげている。</li> </ul>
改善方策	(1) ICT活用に係わる計画的な校内研修と校外研修参加を促進し、教員の指導力向上と授業改善を推進する。 (2) 観点別評価の在り方について各教科で見直しを図り、生徒の学習意欲の向上を図る。 (3) 生徒の学習習慣を定着させるためにClassiやアプリの活用について工夫改善を図る。	
進路指導	教職員アンケートでは進路実現について概ね十分以上が91%、保護者アンケートでは77%であった。生徒アンケートの意欲向上は81%、「先生方は面談等を通して進路情報や適切なアドバイスを行ってくれる」については87%が概ね十分以上としていた。教職員による親身な指導がなされているが、理解を得られていない生徒・保護者も一定数いるため、学年と進路指導部の連携を強化し、指導を充実させていく必要がある。	進路指導の「自己評価と取組」は、ほぼ妥当、「改善方策」は妥当である。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生に将来の具体的なビジョンを持たせることは難しい取組である。進学ありきではなく、目指す夢のための進学となるよう指導をお願いしたい。</li> <li>・生徒と保護者が家庭でしっかりと対話するような働きかけが必要である。</li> </ul>
改善方策	(1) 1,2年次の実力養成講座の在り方、模試対策会を進学講習として実施、3年次進学講習の時間割を見直すなど工夫改善を図る。 (2) 進路別説明会（生徒、保護者）は効果あったため、継続して実施し進路意識の向上を図る。 (3) 保護者への情報提供を充実させ、家庭と連携した進路指導を継続していく。	
生徒指導	教職員アンケートでは、「自律性や社会性を身に付け、責任を持って行動できる生徒の育成」について34%、保護者アンケートでは20%が不十分であった。また、生徒アンケートにおいて、「悩みや困ったことがあったとき、いつでも先生に相談することができる」について28%が不十分という結果であった。いじめのない学校づくりについては教職員アンケートで91%、保護者と生徒アンケートで75%、83%が概ね十分であったが不十分とする回答も一定数あった。	生徒指導の「自己評価と取組」は、ほぼ妥当、「改善方策」は、ほぼ適切である。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒保護者にとって関心の高い項目であり、外部専門機関と効果的な連携を進めてほしい。</li> <li>・悩みを自分から相談できない生徒もいるため、HRや部活動で生徒の小さな変化を見逃さないことが大切である。</li> </ul>
改善方策	(1) いじめ防止基本方針を見直し、いじめ防止対策委員会と生徒指導部・学年の連携を強化し、組織的な取組みを継続していく。 (2) 特別支援委員会を中心に教務部・外部専門機関と連携した組織な支援体制の構築を図る。	

	(3) 定期的な生徒理解調査を通して情報共有を図るとともに、相談窓口の周知、相談しやすい雰囲気づくりに全教職員で努めていく。 (4) 生徒会を中心とした取組を推進し、生徒の規範意識を高めていく。	
健康安全指導	健康安全および生命を尊重する指導について概ね十分以上が教職員アンケートで96%以上、保護者アンケートで85%であった。保健安全部を中心に、実効性の高い防災訓練等の実施し、日常より主体的に安全行動をとる態度の育成をめざしていく。	健康安全指導の「自己評価と取組」はほぼ適切、「改善方策」は妥当である。
改善方策	(1) 危機管理マニュアルとBCPを見直し、校内研修を通じた教員の指導力向上と、生徒の安全行動に対する意識を高めていく。 (2) 感染症（新型コロナ、インフルエンザ）や熱中症対策の改善を図るとともに、生徒が主体的に健康管理を行う態度を向上させていく。	
キャリア教育 探究的な学習	南高の都市型進学型総合学科の教育活動について、教職員アンケートでは概ね十分以上が89%、保護者アンケートでも82%の評価を得ているが、「不十分～よくわからない」という回答も17%あるため、理解してもらう取組が必要である。また、生徒アンケートの「探究的な学習は楽しく、自分の思考力や表現力、コミュニケーション能力が向上したと思う」について、76%が概ね十分以上であったが、一部の生徒では不十分という結果が得られた。	キャリア教育・探究的な学習の「自己評価と取組」はほぼ妥当、「改善方策」は、ほぼ適切である。  ・生徒、保護者に総合学科の特色やメリットを十分理解してもらえるように、説明会等における科目選択やキャリア教育等の説明に工夫改善が必要である。
改善方策	(1) フィールドスタディ「企業訪問-課題設定-解決策」をグループで行うことは、2年次「課題研究」に効果的な取組であり、継続して実施する。 (2) 課題研究について「個人研究」を基本としながら、ゼミ形式で対話的な学びを推進し、思考力、表現力、コミュニケーション能力の向上を図る。 (3) 5学級完成年度に向けて、探究的な学習の効果的なプログラムについて全教員で共通認識を深めていく。	
開かれた学校づくり	広報活動について教職員アンケートでは概ね十分以上が94%、保護者アンケートでは、79%であった。PTA活動については、教職員アンケートでは概ね十分以上が93%、保護者アンケートでは71%であった。地域・保護者への情報発信について改善を図る必要がある。	開かれた学校づくりの「自己評価と取組」は妥当、「改善方策」は、ほぼ適切である。  ・SNSを効果的に活用し、魅力ある旭川南高校の情報発信をお願いしたい。 ・生徒会による除雪ボランティアに感謝している。今後も、地域とのつながりを深め、情報発信をお願いしたい。
改善方策	(1) 学校HP、SNS（Instagram）を活用した積極的な情報発信を継続し、地域・保護者への周知と理解を図る。 (2) 広報活動の活性化とPTA役員との連携を密にした活動を継続していく。 (3) 学校見学会や学校説明会の成果を生かし、中学生にとって魅力ある取組を一層推進していくとともに、保護者の参加も促進し本校の教育活動の周知に努めていく。	
公表方法	・学校評議員会、PTAの役員会等での公表及び本校ウェブページでの公開。	

3 添付資料 1 学校関係者評価、2 教職員アンケート、3 保護者アンケート、4 生徒アンケート